

熊本らしい色彩景観を

つくるために

このガイドラインの使い方

1-1-1 ガイドラインの位置づけ

このガイドラインは、『熊本県景観計画』によって定められた景観形成地域や特定施設屈出地区、大規模行為などの景観形成基準のうち、色彩に関わる項目をより詳しく解説することを目的としています。

国・県・市町村の景観形成担当者をはじめ、施工者、設計者、施工者、地域住民の方々など、さまざまなまちづくりに関わる多くの人たちに、熊本らしい色彩景観づくりを進めていくための手がかりとして利用していただければ、地域の特色や施設の規模などに即した色使いの考え方を具体的に紹介しています。

1-1-2 ガイドラインの構成

このガイドラインは、次の7章によって構成されています。

1 熊本らしい色彩景観をつくるために

1では、このガイドラインの活用方法や、ガイドラインの内容を理解していただくために必要な色彩と景観の基礎知識を紹介しています。

2 景観形成地域の色彩ガイドライン

3 特定施設屈出地区の色彩ガイドライン

4 大規模行為の色彩ガイドライン

2・3・4では、『熊本県景観計画』で定められた地域や地区、行為などの色彩の考え方を具体的に紹介しています。

5 重点地域の色彩ガイドラインの提案

5では、『熊本県景観計画』に基づく指定地域以外で、景観形成を重点的に進める必要がある地域・地区の色彩の考え方を具体的に提言しています。

6 公共事業等の色彩設計

6では、熊本らしい色彩景観づくりの核となる公共事業等の色彩設計の手順などを紹介しています。

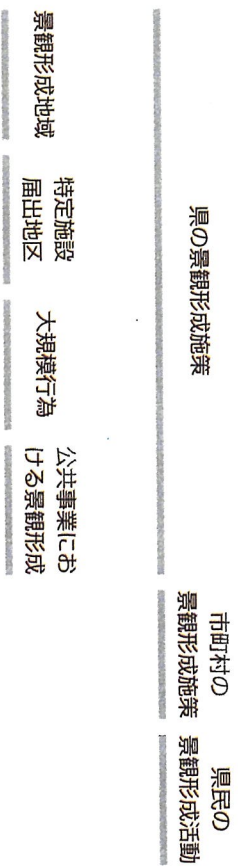
7 色彩をいかしたまちづくり事例

7では、色彩景観に配慮した広告物や建築物、色彩をいかしたまちづくりを進めている全国の地域・地区の事例を紹介しています。

熊本県景観計画及び景観条例

地域の特性を生かした景観の保全と創造を図り、緑と水が豊かで、県民にとって誇りと愛着のもてる県土を醸成することを目的として、景観形成地域や特定施設届出地区における行為や一定規模以上の行為について事前の届出を義務づけています。

景観形成基本方針



色彩景観ガイドライン

熊本県景観計画に基づき各種の景観形成基準のうち、色彩に関わる項目をより詳しく解説し、景観計画の主旨に沿った色彩景観の形成に役立てていただくことを目的としています。

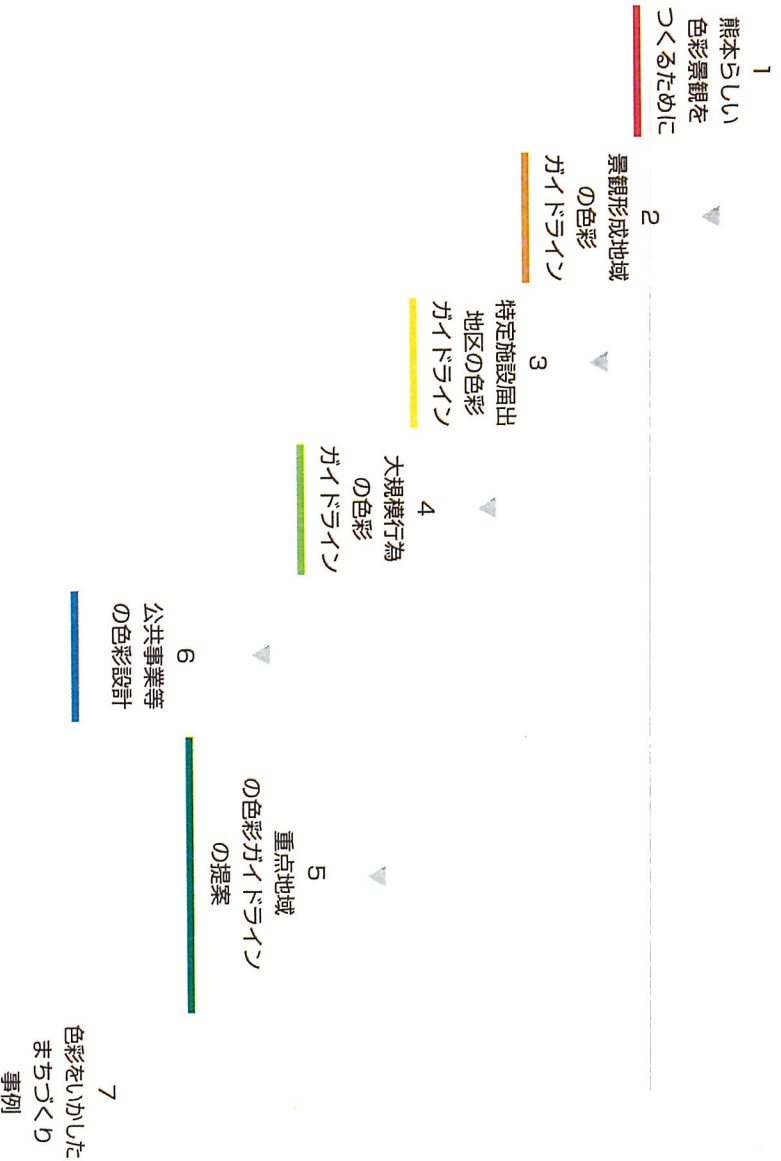
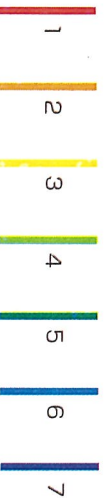


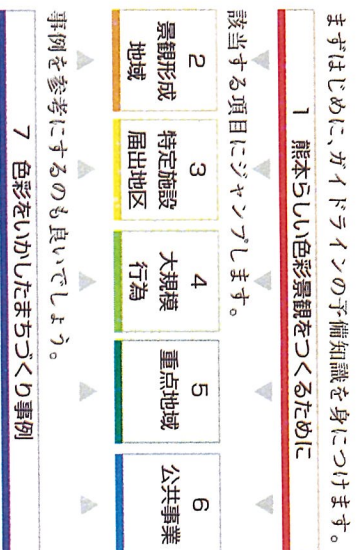
図 景観条例とガイドラインの対応

ガイドラインの早引き

上の図をみても判るように、このガイドラインは、『熊本県景観計画』に定められた地域・地区、行為などに対応して編集されていますから、計画対象がどの項目に該当するかが判っていれば、全体を読まなくても、各章の帯色をたよりに必要な情報を手早く得ることができます。



お急ぎの方へ



色彩のものさし —マンセル表色系

一般的に色彩は、赤や青等の「色名」で表現されていますが、同じ赤や青でも人によって思い浮かべる色彩はさまざまです。
より正確に色彩を伝達するためには、個人の感覚に基づいた表わし方ではなく、多くの人が共有できる客観的尺度が必要となります。
このガイドラインでは、発注者や設計者、施工者などが同じ色彩を共有できるように、日本工業規格(JIS)にも採用されている「マンセル表色系」という色彩のものさしを使って、色彩を表わしています。

1-2-1 マンセル表色系のしくみ

マンセル表色系では、「色相」、「明度」、「彩度」の3つの属性の組み合わせによってひとつの色彩を表わします。

●色相

色味の違いを色相として表わします。色相は、R(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)、GY(黄緑)、G(緑)、BG(青緑)、B(青)、PB(青紫)、P(紫)、RP(赤紫)の10色相の頭文字と、その変化を表わす0から10までの数字を組み合わせて用います。

●明度

色彩の明るさの度合いを明度として表わします。0から10までの数字を用い、明るい色彩ほど数値が大きくなります。無彩色はN5.5などのように最初にニュートラルの意味を表わすNをつけて明るさの度合いだけで色彩を表わします。

●彩度

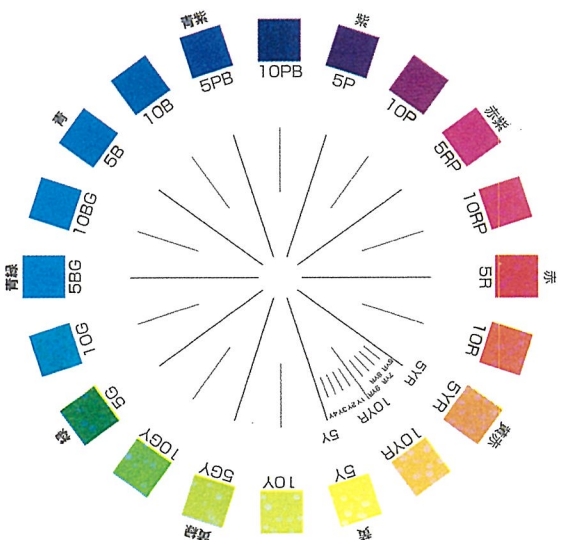
色彩の鮮やかさの度合いを彩度として表わします。鮮やかな色彩ほど数値が大きくなりますが、最大の数値は色相によって異なります。

1-2-2 マンセル記号の表わし方と読み方

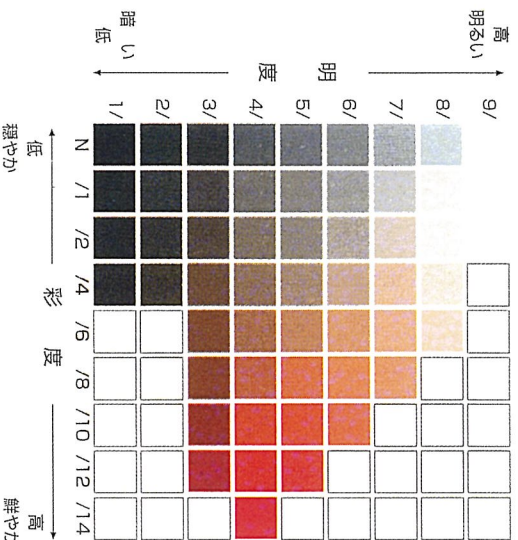
5R	4	/	14
色相	明度		彩度

3つの属性の尺度を、色相、明度、彩度の順に並べたものがマンセル記号です。

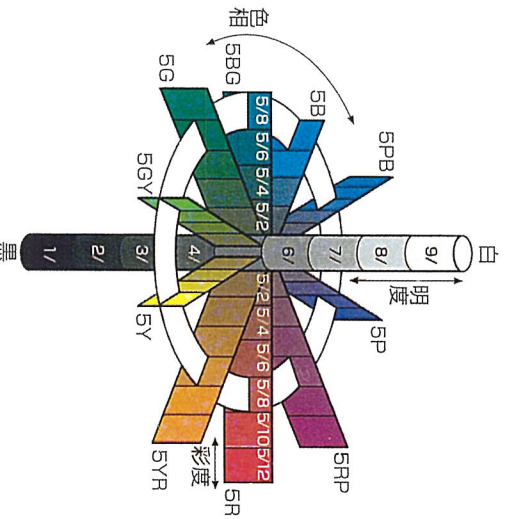
上の例の場合は「ゴパール、4の14」と読みます。



■図 マンセル色相環



■図 色相5Rの色彩



■図 マンセル表色系のしくみ

※マンセル表色系の色票集は、「標準色票」として、(財)日本規格協会から発行されています。

1-2-3 ワンセル色度図

ワンセル表色系によって表わされた色彩は、ワンセル色度図としてグラフ化することができます。色彩のデータをワンセル色度図に変換することによって、周辺環境の色彩などを客観的に把握することが出来ます。

右のワンセル色度図は、色相—明度図と色相—彩度図の2つのグラフから構成されており、2つの点で1つの色彩を表わします。無彩色は、鮮やかさを表わす必要がないため、色相—明度図>上の1つの点で1つの色彩を表わします。例えば、次の色彩は、それぞれ右のグラフのように表わします。

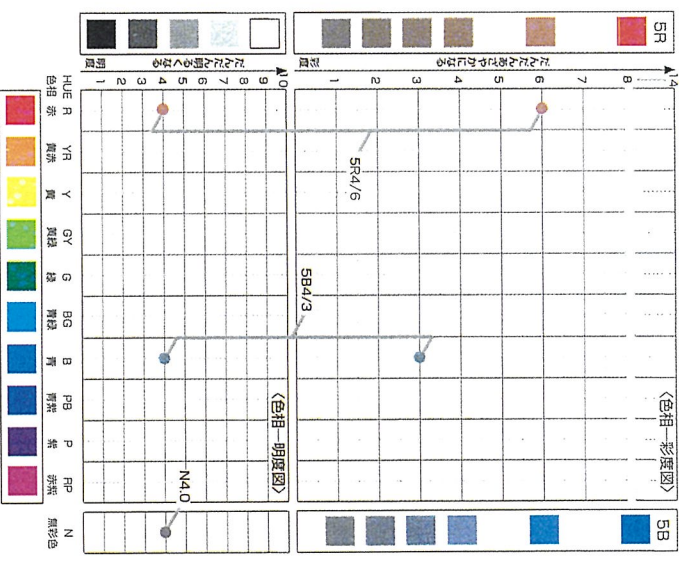


図 ワンセル色度図

1-2-4 トーン

色彩の三属性のうち、明度と彩度を組み合わせたものをトーンと呼びます。

明るさや鮮やかさが似ている色彩は、色相が異なっても強弱や軽重、濃淡などの印象がほぼ共通しています。

色相を3つの属性で表わすとやや煩雑でわかりにくいところがありますが、トーンの考え方をを用いると、より直感的に色彩を捉え直すことができます。

このガイドラインでは、ワンセル表色系を基礎として、色相とトーンによって、景観形成地域や特定施設届出地区、大規模行為などで使用することを避けた方がよい色彩や推薦する色彩の範囲を定めています。

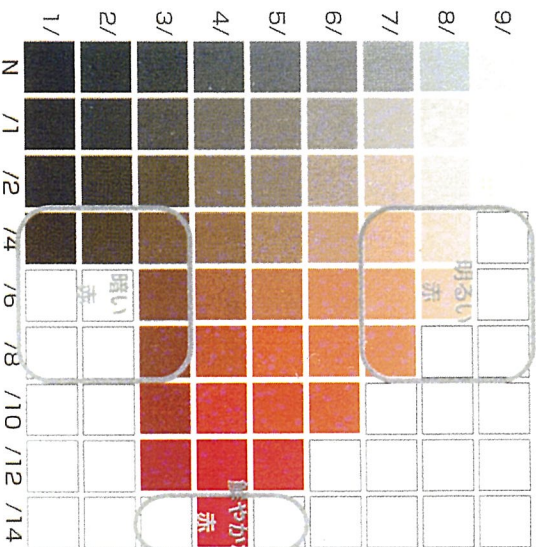


図 色相とトーン

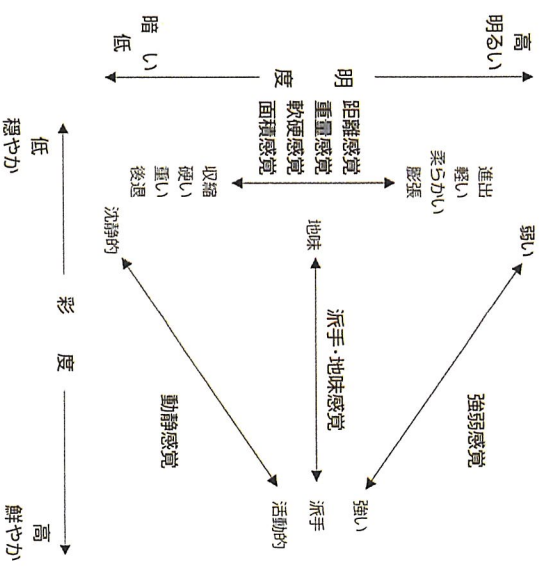
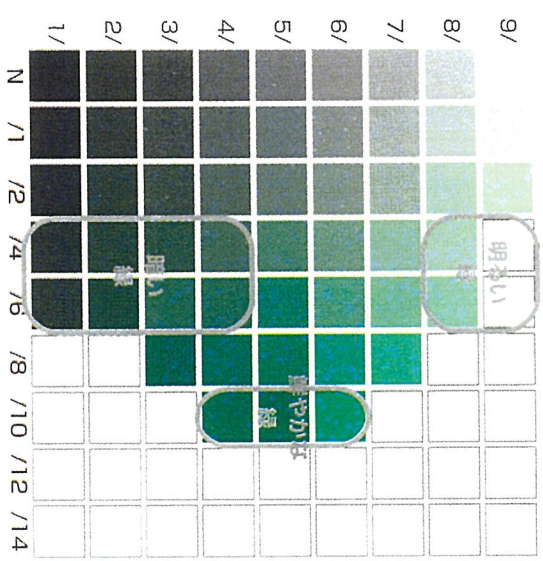


図 トーンと色彩の印象



熊本らしい色彩景観

●雄大な自然と豊富な歴史的・文化的資産

熊本の色彩景観は、阿蘇や天草など、県内、九州はおろか、全国的にもよく知られた豊かな自然を基調としてかたちづくられています。

阿蘇の山々の緑や、天草の海の碧は、時間や季節とともに移り変わり、人の手ではけっして作り出すことのできない美しい色彩で多くの人々を魅了しています。

一方、県都熊本市をはじめとした都市部では、地域が蓄積してきた歴史や文化を反映した、品格のあるまちなみが形成されています。

こうした熊本を代表する景観の中に見られる色彩は、いずれも穏やかで見る目にやさしく、熊本の自然や文化の豊かさを感じさせるものです。建築物や工作物などが新たに加わることによつてこのような豊かな景観が損なわれることは避けなければなりません。

周辺の景観やその色彩をよく知り、建築物や工作物などの色彩をどのように関係づけていくかを考えることが、熊本らしい色彩景観づくりの第一歩になります。



写真 草千里



写真 朝焼けの阿蘇

- 阿蘇の牧草の若草色
- 天草の海の碧
- 球磨川の流れる水色
- 空港周辺の畑の黒茶色
- 土蔵造りのまちなみの白や鼠色……

熊本らしい風景は、穏やかでやさしい色彩で織りあげられています。



写真 広大な田園

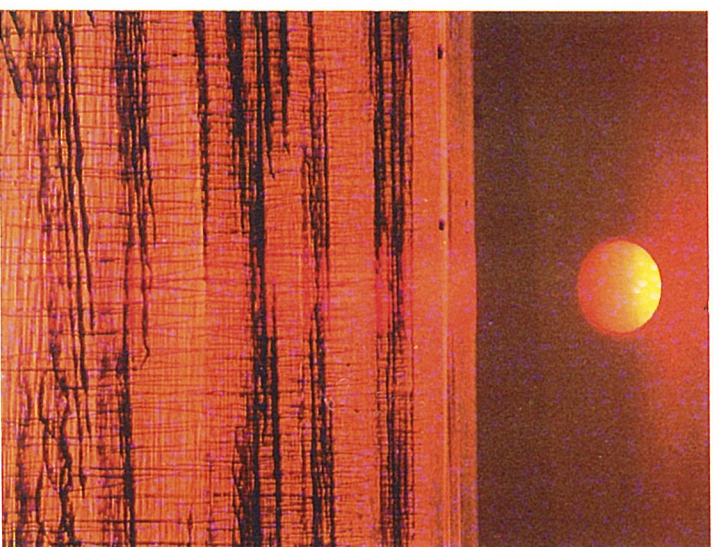


写真 有明海の落日